

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600019
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム慶雲
所在地	喜多郡内子町大瀬中央5652番3 (電話)0893-47-0077
自己評価作成日	平成22年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域行事にこちらから参加しこちらの行事にも参加して頂き地域に密着した関わりが出来つつある。  
 ・素晴らしい自然の中で顔見知りの方々と楽しく生活が送れる。  
 ・東棟の理念の『笑顔であいさつ、笑顔で仲良く、笑顔で助け合い』をモットーに日々努力し入居者が満足できるような支援をおこなっている。  
 ・建物では、見晴らしの良いテラスが自慢で入居者の皆さんにも気持ちよく散歩が出来ると好評です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医師である代表者の往診や看護師による訪問看護が実施され、利用者の健康状態が十分管理されており、安心してホームの生活を送ることができる。ホームは平屋で、入居者は玄関を挟んだ東棟と西棟を自由に行き来でき、近所づきあいや地域交流に力を入れ、利用者が地域で生活するための基盤を築く努力がされている。ホームの広々とした眺めのよいテラスを地域交流の場として活用したいと考えている。職員は、それぞれ役割(園芸、広報、レク、防災等)を任されており、その役を楽しく遂行している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム慶雲

(ユニット名) 東棟

記入者(管理者)

氏名 松田 幸博

評価完了日 平成 22 年 9 月 6 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 会社の理念とは別に各ユニットで理念を掲げ誰でも見れる所に掲示している。また、入居者と一緒に理念を確認し日々送っている。初年度に理念を立て3年経過しているので変更しては・・・と現在スタッフ間で検討中である。</p> <p>(外部評価) 各ユニットでそれぞれの理念を掲げ、朝の体操時やカンファレンスの際に共有しながらケアに臨んでいる。今後、地域密着型サービスの意図を含めたホーム全体の理念を掲げ、それに基づいた各ユニットの理念を作成する予定であり、利用者、職員で話し合っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事には積極的に参加し、交流を図っている。地域の方も行事での席の確保や門松作り等の援助を受けている。今後、事業所内で行う行事に積極的に案内を呼びかけ交流を図っている。</p> <p>(外部評価) 最近、周辺に住宅が数件建ったため、ホーム主催の行事に参加を呼びかけ交流を図り始めている。眺めのいいホームのテラスを交流の場として活用したいの思いがある。また、地域行事には必ず参加するようにし、地域の一員として常に接点を持つように努力している。</p>	利用者がホームのある地域の一員として暮らすためには、ホームが交流の拠点として機能するよう望みたい。そして、住民が認知症や認知症ケアについて理解を深め、住民と利用者との関わりが密になるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議で認知症についての勉強会を行ったり、内子町内のグループホームが開いている連絡協議会において地域住民参加の研修会を毎年開催している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 自治会長・区長・民生委員・役場の職員等へグループホームの行事報告や取組について話し合い・意見交換を行っている。また、特定のスタッフの参加ではなく交替で会議に出席することにより会議の大切さ理解を深めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、家族も参加しやすい時間帯を選び2か月に1回開催している。参加メンバーからの意見や事業所の報告以外にも、消防署員を招いて災害時の対応方法やAEDの使用方法の勉強会も合わせて行うこともある。職員も交代で参加しサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 月1回のグループホーム連絡協議会・運営推進会議等により意見交換を行っている。また、不明な点や分からない事が合った場合は、担当者に問い合わせると相談をしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議以外に月1回のグループホーム連絡会の場を活用し、意見交換や情報共有を行いながら密な関係を築いており、運営等について気軽に相談できる関係が構築されている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 勉強会を行い周知している。身体拘束をしないケアを心がけているが、生命の危機等によりどうしても拘束が必要な場合は家族の同意を得たうえで行き、毎月のケアカンファレンスにて検討を行い再度家族に状況説明を行っている。</p> <p>(外部評価) 職員自らが調べて講師を務めるという方法で内部研修を行っており、職員は積極的に勉強している。玄関は夜間以外、常に鍵を掛けないようにしており、利用者の外出にはさりげなく声を掛け一緒について行く等、自由な暮らしを支えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 入浴・更衣・トイレにて良く観察を行い、入居者に傷・あざ等がある場合は原因を追究している。スタッフが感情的になった時、対応が困難な場合は他のスタッフが仲裁に入るよう取り組んでいる。今後、勉強会・研修に参加し重要性を学んでいきなさい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、権利擁護を利用している入居者がいない為、知識が薄れている。今後、権利擁護を利用している方が入居しても対応出来るよう研修に参加したり、勉強会等を行い知識を深めていく必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、契約更新時、解約時の説明に関しては十分な説明が行えるようゆとりある接し方をし、遠方の方に関しては書類と口頭での説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時に苦情の取り扱い、苦情の窓口については説明を行い、気軽に意見を言っていただけよう事業所の玄関先に意見箱を設置している。意見を受けた事にたいしては業務カンファレンス等にて報告し改善方法を検討している。 (外部評価) ホームや利用者の情報提供が少ないと家族からの意見や要望も出にくいと考え、来所時に積極的に職員から話しかけるようにしている。また、家族会の中で行ったバーベキュー等の企画については、約3か月前から利用者やご家族にも役割を持ってもらい、家族会が積極的に参加できるように図っている。	家族会を通して、積極的に意見や要望を聴き取ろうとする姿勢は見られるが、家族のみで意見交換できる機会を設ける等の工夫を凝らしさらに様々な意見等が出るような環境作りや取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者に対しては、2ヶ月に1度のホーム長会議にて意見反映の場を設けている。事業所では業務カンファレンス等にてスタッフの意見を聞く機会を設けている。最近では直接管理者に意見・提案をするスタッフも増えてきている。  (外部評価) 管理者はミーティング等で、職員の意見を聴く機会を設けたり、いつでも職員が意見や要望を言やすいように、日頃から良好な関係を築く努力をしている。また、職員一人ひとりに役割を持たせることで職員としての自覚を促し、ケアや運営に積極的に取り組めるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は多忙な為、困難な状況である。部長が定期的に事業所に訪問し管理者、職員に意見を聞いている。今年の4月より、より細かく事業所の状況を把握する為、副部長制をつくり月に2度施設訪問を行いスタッフの意見、就業環境等の把握に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) レベルアップの為の研修について、事前に対象者に対して面接を行い会社に対する必要性を論じている。管理者に対しては、随時ホーム長会議にて心得等について話し合っている。事業所内ではスタッフが講師となり3ヶ月に1回の勉強会を開催している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ホーム長会議を開催し、他事業所との意見交換を行っている。また、行事にて交流も図っている。内子町内でもグループホームも管理者が集まり意見交換や行事を開催したりと活発的に取り組んでいる。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に事前調査を実施し、家族・本人より意見を聞いている。また、事前調査等をスタッフ全員が見れるようにしたり入居後もユニットのスタッフ全員が情報を共有できるようケアカンファレンスにて報告、対策を練っている。また、日常生活では常に関わりを持つようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査で家族の困っていること要望等を聴き、また担当のケアマネージャーにも意見を聴いている。入居時のケアプラン作成時に再度要望等を聴き関係作りに努めている。入居後も生活状況等を報告し家族と意見交換を行っている。5月に家族会を開催した。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前調査や情報提供書などにより本人の状況を確認し、家族に要望・希望等を聞き話し合う。また、当施設にての支援が困難な場合は担当のケアマネージャーに報告しその後のサービスの継続について検討をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者から生活の知恵を教えていただいたり、料理の作り方等いろいろ教わりながらお互い支えあい生活を送っている。その人を尊重した言葉かけを心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月行事を行うときは、行事担当者が企画書を立て家族へ呼びかけを行っている。誕生日に家族さんが参加され充実した行事を実施できたこともある。普段見れない表情が見れて良かった。問題行動により困っている時は家族の協力のもと支援を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 認知症の進行等もあるので環境を極力変化しないよう配慮しているが、どうしても行うときは全スタッフにて対応してる。他棟との交流も多く作り馴染みの人が多く出来るよう取り組んでいる。  (外部評価) 利用前の馴染みの関係を継続させるために、馴染みの散髪屋へ行ったり、利用者の知人にも行事に参加してもらおう等の働きかけをしている。また、ユニット間の行き来を自由にする事で、利用者同志の新たな馴染みができている。昔の話を傾聴する時間を設けたり、居室に馴染みのものを置くなども心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 本人の小さな変化に気を付け注意を払い、仲の良い入居者同士が過ごせる配慮をする。孤立した利用者が交じわる機会を作る。世話好きな入居者に力を發揮してもらおう場面を作っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 体調の悪化により当施設でのサービスの利用が困難になった場合でも1日でも早く戻れるよう家族・主治医・医療連携の看護師と話し合っている。以前にも一旦退居され当グループホームを再利用されている方もおられる。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や意向を聴けるように取り組んでいるが、困難な場合は家族に協力を求めたり、ケアカンファレンス等にて意向に添えられるよう話し合っている。  (外部評価) 思いや意向について、利用者本人から聴くようにしているが、意思疎通が困難な利用者については日頃の関わりの中で汲み取るように心がけている。また、家族や知人からも情報を得てケアカンファレンス等で検討、共有し、支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査時に生活歴や暮らし方、生活環境を把握している。入居後も面会時に再度家族・本人に確認を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録・経過観察記録・水分チェック表・業務日誌等から現状の把握に努めている。月1回のケアカンファレンスにて出来る事等を全スタッフで確認し日常生活に活用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回ケアカンファレンスにて本人・家族の意向・要望を参考に全スタッフで介護計画を作成し、同意のもと実施している。変更時、実施状況は随時報告を行っている。必要に応じて主治医・医療連携の看護師等にも意見交換を行っている。また、家族の面会時にも要望、意見、状況報告を行っている。 (外部評価) 担当者が利用者の思いや意向を把握し、利用者本位の介護計画になるよう留意している。また、職員全員で行うケアカンファレンスで、必ず月1回モニタリングを行い、主治医・看護師の医療からの視点も意見として取り入れるようにし、日々のケアに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録の様式を変更し本人の言葉や様子等、細かく記録するよう周知し努力している。記録物については十分行っているが、情報の共有に関しては申し送りノートを活用し、ケアカンファレンス等にて介護計画の見直し等を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 事前に話し合いを持ち、要望があれば前向きに検討している。現在、療養マッサージを活用されている。医療に関しては、異常があれば診療所に連絡し入居者の状況を報告している。また、週1回医療連携の看護師が訪問し体調監理を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 保育園・消防署・ボランティアの行事の参加等、地域資源を少しずつ活用はしているが、まだまだ不十分である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ○○病院・◇◇歯科・△△診療所等との協力体制を取 り必要に応じて受診できるような支援を行っている。  (外部評価) 利用前の主治医を継続する場合もあるが、基本的には 同系の診療所が主治医となり、受診支援はホームが実 施している。また、週1回、看護師がホームを訪問し 健康管理を行っており、利用者は安心して生活が送れ ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 変化があれば診療所への状態の報告や、医療連携の看 護師に随時報告・相談を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は当施設より情報提供書を作成し、退院時は診 療提供書を頂き共に情報を共有し介護についても継続 して支援出来るよう努めている。また、入院中は入居 者の現状を聴き主治医に現状報告を受け早期退院の検 討を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時にも重度化・終末期について説明している。主 治医・医療連携の看護師と協議を行い事業所での可能 な対応を家族に説明している。また、カンファレンス にてスタッフ全員の意識統一を図っている。  (外部評価) 終末期の支援について「看取り同意書」と「緊急時希 望書」を作成し、納得し安心して最期を迎えられるよ うに、随時ご家族へ意思を確認しながら取り組んでい る。また、ホームでの看取り経験が2例あり、個別の 看取りマニュアルを作成し職員全体で共有し家族にも 満足してもらえた。	直接利用者を支援する職員に対して不安を少しでも解 消するために、看取りに臨むための事前学習や、看取 り後の精神的なフォロー等について、より一層の取り 組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時・事故発生時には係りつけの診療所に連絡し早期に対応している。また、随時医療連携の看護師の参加の下、対応の方法等を聴ける機会を作っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎年度2回避難訓練を行い、日勤帯・夜間帯を想定して行っている。また、全員が消火器を使えるよう指導も受けている。近隣住民にも参加を集い連絡体制等を一緒に検討している。  (外部評価) 年2回の避難訓練に加え、運営推進会議等でも消防署員を講師として招き、災害対策方法やAEDの使用方法等について勉強会を重ねている。また、近隣の方にも参加してもらい避難訓練を実施した。今後も定期的に行い地域の避難訓練マニュアルを作成したいと考えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個別の対応を行い馴れ合いのもと仲良くコミュニケーションが取れている。人生の先輩という気持ちで常に持ち人格を尊重しプライバシーを損ねないよう配慮している。  (外部評価) 声かけやケアの方法について、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮している。また、利用者について気がついたことを、随時共有できるように業務日誌や連絡ノートを活用し「その人らしさ」を尊重できるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃のコミュニケーションからも本人の希望・願望を聞き取り介護記録や申し送りノートに記載し他のスタッフに伝えたりケアカンファレンスにて検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の希望に添えられるように支援しているが、共同生活の場であり、スタッフに余裕がないときは本人に説明し理解をしていただくように配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入居者が希望される時は、出張美容を利用している。また、外出等は身だしなみについても一緒に行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者の好き嫌いを聞き、なるべく食事が楽しくなるよう別のものを代用し対応している。また、スタッフも一緒に食事を行うよう取り組んでいる。入居者の好きなメニューを献立に取り入れている。  (外部評価) 献立は、法人内の9つのホームが持ち回りで、栄養面を考え献立を立てている。その献立を基本に、近隣の農業体験施設からもらった新鮮野菜を調理しメニューに加えている。健康面に配慮しながら、無理のない食事量等にするよう留意されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量は全員毎日チェックし記録に残している。また、残した食事に関しては記録を行っている。食事量が減ったり水分が取れていない場合は早急に医療連携の看護師・主治医に連絡するよう取り組んだり、栄養補助食品を利用したりしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎日食後に声掛けを行い、口腔清潔が出来ない方は介助している。週1回義歯洗浄を行っている。観察を十分に行い異常がある場合は家族と相談のもと歯科受診を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 排泄管理表を利用し定期的なトイレ誘導を行っている。尿意・便意がないからといってオムツに依存する事無くケアカンファレンスにて議題に取り上げその人にとってどの対応が良いのか話し合っている(差込便器、P-トイレ等) 短期で解決できないものに関してはケアプランに取り上げている。	
			<p>(外部評価)</p> 自尊心を損ねない一人ひとりに合った声かけや対応ができるよう、ケアカンファレンスで共有しながら排泄介助に取り組んでいる。また、排泄の失敗やオムツの使用を減らすために、差込便座やポータブルトイレ等の介護用品も利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 水分チェック表を取り入れ、1日の水分量に気を付けている。また、献立についても野菜を多く取り入れたり朝のリハビリ体操・足上げ運動等で便秘予防に取り組んでいる。そして、医療連携の看護師・主治医と相談しながら服薬についても常に検討している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 毎日、入浴できるような配慮はしているが本人の希望に沿うような入浴は出来ていない。四肢が不自由な方でも一般浴にて出来る限り対応している。	
			<p>(外部評価)</p> 希望があれば毎日の入浴は可能である。基本的には最低週2回は入浴できるよう支援されている。入浴を拒否する利用者については、家族の協力を得たり、声かけを工夫する等、入浴したい気持ちになるよう対応している。また、同性介護にも配慮しながら、気持ちよく気兼ねなく入浴ができるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 就寝時間は21時となっているが、入居者の意見を尊重している。なかなか眠れない入居者には温かい飲み物を提供したり、コミュニケーションを十分に取らず不安等を取り除くよう配慮している。また、日中も自由に休息できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬がないよう一人一人一回分ずつの薬を袋に入れている。また、二重チェックの為に準備するスタッフと手渡すスタッフを別に行っている。薬の用途・副作用についてはファイルに閉じ直ぐに確認できるよう配慮している。随時、主治医と服薬の継続について検討している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 買い物・洗濯・料理・散歩・お茶会・外出等を取り入れ気分転換を図っている。また、家族から生活歴を聴き生きがいになるような事を見つけれるよう日々努力している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出支援は行っているがスタッフ中心である。入居者の身体状況も悪化し外出先も限られてきている。地域より外出先の情報を頂き参考にしているがトイレ等の条件がある為困難である。また、外出者に偏りがあるので方よりなく外出出来るよう支援していく。 (外部評価) 買い物等での外出は、隣接する同法人の事業所と一緒に出かけることが多い。外出は月2～3回程度あり楽しみにしている利用者も多い。団体で買い物を嫌がる利用者については、受診の際に買い物をして帰る等の個別配慮をしている。中学生による外出支援のボランティアも受け入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には施設にて管理しているが、一部の入居者については家族の了承のもと自分で管理しておられた。しかし、認知症の進行のため些細な問題が発生した。その後、本人と家族と施設で小額を管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話支援については希望者は家族に了承を頂き実施している。3ヶ月に1度入居者の現状を報告する手紙を家族に郵送している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フロアには季節を感じる事が出来るよう写真や折り紙での作品等を飾っている。また、カーテン・窓を開閉し外の景色や空気を五感で感じる事が出来るよう配慮している。室温・テレビの音量等も配慮し居心地の良い空間作りに取り組んでいる。	
			(外部評価) ホーム全体に木の温もりが感じられ、畳のスペースにコタツを設置したり、対面キッチンの前にはテーブルやソファが置かれたりしており、利用者は好きな場所で寛ぐことができる。また、利用者と一緒に作った飾りつけは、季節感とホーム全体の一体感があり、自分の家だという意識が高められるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テレビを見たい方はソファにてゆっくり鑑賞され、会話をしたい方はフロアにて過ごされている。日課に縛られずゆっくり過ごされる時間を作っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の協力のもと馴染みの物を部屋に持ち込まれている方もおられるが当施設のものしかない方もおられる。働きかけは行っているがなかなか実現できていない。	
			(外部評価) 居室にはベッド、タンス、カーテンが備え付けられているが、使い慣れた馴染みのものを持ち込んでもらい、その人らしい生活ができるよう工夫され自分の居場所としていつでも心地よく過ごせるような支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 麻痺のある方のベッドの位置、トイレが近い方はトイレに近い部屋にする等考慮している。転倒の恐れがある場合は危険物は排除し安全な環境作りを常に検討している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600019
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム慶雲
所在地	喜多郡内子町大瀬中央5652番3 (電話)0893-47-0077
自己評価作成日	平成22年9月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員、入居者同士仲良く、施設の雰囲気も明るく入居者の方も楽しく生活しています。  
 ・建物では、見晴らしの良いテラスが自慢で入居者の皆さんにも気持ちよく散歩が出来ると好評で、自然に囲まれ季節感を感じられる場所にあります。  
 ・毎朝、リハビリ体操を取り入れ、ほぼ全員参加され健康な体作りに励んでいます。  
 ・介護に対する職員同士の団結力があり、定期的に勉強会を開催し、介護技術の向上に努めています。  
 ・地域行事(道づくり、運動会等)には積極的に参加し、地域の方から参加の呼びかけをして頂き今では頼りにされています。  
 ・周りに家も建ち近隣住民が増えにぎやかになり、施設行事に呼びかけをすると積極的に参加して頂き交流を深められています。小さな子供がいる家庭が多く、子供の笑い声がする度に入居者の方の笑顔が多くなりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医師である代表者の往診や看護師による訪問看護が実施され、利用者の健康状態が十分管理されており、安心してホームの生活を送ることができる。ホームは平屋で、入居者は玄関を挟んだ東棟と西棟を自由に行き来でき、近所づきあいや地域交流に力を入れ、利用者が地域で生活するための基盤を築く努力がされている。ホームの広々とした眺めのよいテラスを地域交流の場として活用したいと考えている。職員は、それぞれ役割(園芸、広報、レク、防災等)を任されており、その役を楽しく遂行している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム慶雲

(ユニット名) 西棟

記入者(管理者)  
氏名 松田 幸博・山上 真弘

評価完了日 平成 22 年 9 月 8 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 会社全体での理念が3つあり、各ユニットのフロアに掲示している。また、西棟フロアの理念も作っている。職員で毎日取り組み現在では達成出来ているので、新しく目標を立て直す検討をしている。</p> <p>(外部評価) 各ユニットでそれぞれの理念を掲げ、朝の体操時やカンファレンスの際に共有しながらケアに臨んでいる。今後、地域密着型サービスの意図を含めたホーム全体の理念を掲げ、それに基づいた各ユニットの理念を作成する予定であり、利用者、職員で話し合っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 清掃活動、球技大会、運動会等地域の方から呼びかけて頂き積極的に参加している。学生ボランティア等も受け入れており、7月に体験学習で地元の中学生が来られ入居者と交流を図ることが出来た。また、近所に数件民家ができ、施設の行事にて交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 最近、周辺に住宅が数件建ったため、ホーム主催の行事に参加を呼びかけ交流を図り始めている。眺めのいいホームのテラスを交流の場として活用したいという思いがある。また、地域行事には必ず参加するようにし、地域の一員として常に接点を持つように努力している。</p>	利用者がホームのある地域の一員として暮らすためには、ホームが交流の拠点として機能するよう望みたい。そして、住民が認知症や認知症ケアについて理解を深め、住民と利用者との関わりが密になるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、今年の3月より近隣住民にも会議に参加して頂いている。また、内子町グループホーム連絡会にて地域住民参加の研修を開催している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議にて行事報告や取組等について話し合っている。消防職員による火災時等の話し合いや、参加者の意見を参考にしながらサービスの向上に取り組んでいる。特定のスタッフだけでなく交代で会議に参加し、会議の意義を理解している。	
			(外部評価) 運営推進会議は、家族も参加しやすい時間帯を選び2か月に1回開催している。参加メンバーからの意見や事業所の報告以外にも、消防署員を招いて災害時の対応方法やAEDの使用方法の勉強会も合わせて行うこともある。職員も交代で参加しサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 月1回のグループホーム連絡会、運営推進会議や電話等により意見交換を行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議以外に月1回のグループホーム連絡会の場を活用し、意見交換や情報共有を行いながら密な関係を築いており、運営等について気軽に相談できる関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 西棟では現在身体拘束を行っている。家族に必要性を十分に説明し同意を得て行っている。また、一日も早く取り止めが出来るよう月1回のケアカンファレンスにて話し合いを行い、現在では時間を短縮して行うほどに改善している。	
			(外部評価) 職員自らが調べて講師を務めるという方法で内部研修を行っており、職員は積極的に勉強している。玄関は夜間以外、常に鍵を掛けないようにしており、利用者の外出にはさりげなく声を掛け一緒について行く等、自由な暮らしを支えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についての研修に多くの職員が参加し学びたいと考えているが研修等に参加できていない。近日、研修の予定があり職員が参加するので、全職員に周知徹底出来るよう勉強会に取り入れたり、会議にて発表の場を設けていきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 以前、権利擁護を利用されていた入居者がいたため少しずつ理解を深めていたが、現在では知識が薄れている。今後、権利擁護・成年後見制度についての勉強会の開催、研修への積極的な参加により知識を深めていく必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時・契約変更時・解約時の際、家族の方が分かりやすいように説明しその都度質問に答えながら行っている。重要事項説明書に沿っても説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時に苦情を受け付ける場所を明示している。施設内に意見箱を設置しており来訪者が自由に書いて入れられるように配慮している。また、3ヶ月に一度手紙を送り意見・要望を確認している。苦情が出た場合は職員が集まり話し合いを行い今後の対応を検討する。 (外部評価) ホームや利用者の情報提供が少ないと家族からの意見や要望も出にくいと考え、来所時に積極的に職員から話しかけるようにしている。また、家族会の中で行ったバーベキュー等の企画については、約3か月前から利用者やご家族にも役割を持ってもらい、家族会が積極的に参加できるように図っている。	家族会を通して、積極的に意見や要望を聴き取ろうとする姿勢は見られるが、家族のみで意見交換できる機会を設ける等の工夫を凝らしさらに様々な意見等が出るような環境作りや取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 管理者は月1回の業務カンファレンス・ケアカンファ レンスにて意見を聴き、その都度施設内が良くなるよ うに取り組んでいる。また、それ以外でも随時管理者 は職員の意見を聴いている。  (外部評価) 管理者はミーティング等で、職員の意見を聴く機会を 設けたり、いつでも職員が意見や要望を言いやすいよ うに、日頃から良好な関係を築く努力をしている。ま た、職員一人ひとりに役割を持たせることで職員とし ての自覚を促し、ケアや運営に積極的に取り組めるよ う努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 代表者は多忙な為、訪問回数が少なくしっかり状況把 握をしているか分からない。部長が定期的に事業所に 訪問し管理者・職員に意見を聴かれていたが、多忙な 為現在は副部長制を作り定期的に訪問を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者に対してはホーム長会議にて心得等について話 し合っている。また、その会議にて得た情報は施設内 の会議にて報告している。施設内においても3ヶ月に 1回勉強会を開催しサービスの質の向上に向けて取り 組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 随時ホーム長会議を開催し、会社内の情報交換を行っ ている。また、内子町においてもグループホーム連絡 会にて管理者同士にて話し合いを行い交流を取り、 サービスの向上を図っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査やホーム内の見学時に可能な限り本人の意向 を聞いている。入居後もケアカンファレンスにて信頼 関係が築けるよう全職員で話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査やホーム内の見学時に可能な限り家族の意向を聞いている。入居後も生活状況を報告し家族と意見交換を随時行っている。5月に開催した家族会の時にも再度話し合いを行った。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、グループホームの入居に適しているか事前調査を行っている。また、利用困難な場合は担当のケアマネージャーに他のサービスを利用しているかの確認、引き続き受けられるかも検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者の方と一緒に食事作り、洗濯物干し、洗濯物たたみを行う等生活において協力し合い関係を深めている。また、自分から朝の掃除の際にモップがけを手伝って頂ける入居者がおり、お互いが協力し合い支え合っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、家族に入居者の生活状況やケアプランを説明を行ったり、行事参加の呼びかけを行っている。家族・入居者の両者からの話を聞き、可能な限り中立の立場になって接していくよう心がけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのある床屋が訪問し散髪している。電話や手紙のやり取りも行っている。企画の際に知人の方にも呼びかけをし、参加されると喜ばれていた入居者の方もおられた。また、昔の話などを本人より聞いたりしてコミュニケーションも図っている。 (外部評価) 利用前の馴染みの関係を継続させるために、馴染みの散髪屋へ行ったり、利用者の知人にも行事に参加してもらう等の働きかけをしている。また、ユニット間の行き来を自由にする事で、利用者同志の新たな馴染みができている。昔の話を傾聴する時間を設けたり、居室に馴染みのものを置くなども心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士が関わりを持てるよう話の間に入ったり同じ作業をして頂いたりしている。コミュニケーションの困難な入居者は職員が間に入りフォローしている。入居者間で口論になった場合にも、職員が間に入り仲介役となり入居者同士の関係が壊れないように中を取り持つように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院により退居となった入居者の場合は継続して家族と定期的に連絡を取り関係を断ち切らないよう配慮している。その為、再度利用された旨もあった。入院中は面会にて状況を把握し家族と連絡を取る場合もある。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個々の希望を聞き可能な限りその人らしい生活を送って頂いているが、自分の意思を訴えられない方に対して一連の流れで過ごされている方もおられる。今後は、訴えが困難な方に対しても声掛けを多く持ち、本人の願いを汲み取れるよう気を付けていきたい。 (外部評価) 思いや意向について、利用者本人から聴くようにしているが、意思疎通が困難な利用者については日頃の関わりの中で汲み取るように心がけている。また、家族や知人からも情報を得てケアカンファレンス等で検討、共有し、支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査の際に本人と家族から話を聴き記録に残し、分からない点は面会時に再度家族に確認している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 事前調査で聴いた内容と分からなかった点を再度家族に確認し記録に残している。変わった点があった場合も記録に残し職員に申し送っている。また、入居者に色々な事をやって頂きどこまでの事が出来てどこからが出来ないか確認し、少しでも出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人と家族の方から意見を聞き、ケアプランを作成している。月に1回ケアカンファレンスを開催し西棟スタッフ全員の意見を聞き作成している。また、必要時家族・主治医・医療連携の看護師にも意見を聞いている。  (外部評価) 担当者が利用者の思いや意向を把握し、利用者本位の介護計画になるよう留意している。また、職員全員で行うケアカンファレンスで、必ず月1回モニタリングを行い、主治医・看護師の医療からの視点も意見として取り入れるようにし、日々のケアに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録の様式を変更し細かく記録するよう日々努力している。また、個別記録は各担当者が責任を持って作成し、月1回のケアカンファレンスにて見直し等を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 異常がある入居者については朝、神南診療所に連絡し対応を問うている。また、週1回医療連携の看護師が来訪され入居者全員の状態を把握している。家族にもその都度報告している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 6月に地域の保育園との交流を行い、入居者は大変喜ばれていた。今年の3月・6月に消防署を交えた避難訓練を行い6月については近隣住民の方にも参加していただいた。7月には中学生の体験学習も行った。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居契約の際、家族の方にかかりつけ医の説明を行い 理解を得ている。適切な医療を受けられるよう受診・ 往診を支援している。  (外部評価) 利用前の主治医を継続する場合もあるが、基本的には 同系の診療所が主治医となり、受診支援はホームが実 施している。また、週1回、看護師がホームを訪問し 健康管理を行っており、利用者は安心して生活が送れ ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 変化があれば診療所への状態の報告や、医療連携の看 護師に随時報告、相談を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した時は主治医と相談し情報交換をしている。主 治医のほうから退院予定の説明もありより良い関係作 りが出来ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居契約時に終末期医療についての資料を家族に渡し 説明を行っている。事業所で出来る限り行うよう前向 きに検討している。家族からの要望・希望についても 事前に確認を行い主治医・医療連携の看護師と相談を 行っている。  (外部評価) 終末期の支援について「看取り同意書」と「緊急時希 望書」を作成し、納得し安心して最期を迎えられるよ うに、随時ご家族へ意思を確認しながら取り組んでい る。また、ホームでの看取り経験が2例あり、個別の 看取りマニュアルを作成し職員全体で共有し家族にも 満足してもらえた。	直接利用者を支援する職員に対して不安を少しでも解 消するために、看取りに臨むための事前学習や、看取 り後の精神的なフォロー等について、より一層の取り 組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年1回消防署主催の普通救命講習を全職員が受講している。今年はまだ受講できていない為、近日実施予定。緊急連絡網を作成し必要時は電話連絡している。また、週に1回の医療連携の看護師の方に不安な点等質問している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎年度2回避難訓練を実施している。マニュアルもたて実施している。今年の6月には近隣住民を交えた訓練を実施することが出来た。  (外部評価) 年2回の避難訓練に加え、運営推進会議等でも消防署員を講師として招き、災害対策方法やAEDの使用方法等について勉強会を重ねている。また、近隣の方にも参加してもらい避難訓練を実施した。今後も定期的に行い地域の避難訓練マニュアルを作成したいと考えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者の声掛けにはプライバシーを損ねないように注意している。また、職員の入社時に守秘義務の同意書に同意している。  (外部評価) 声かけやケアの方法について、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮している。また、利用者について気がついたことを、随時共有できるように業務日誌や連絡ノートを活用し「その人らしさ」を尊重できるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来る限り本人の希望を聞いているが、入居者全員の希望は現在聞けていない状態である。今後は、自己決定が困難な入居者は表情を良く観察し、本人の意向を導けるよう努力していきたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 以前に比べゆっくり過ごす事が出来つつあるが、日々の業務に追われ入居者一人一人のペースでは過ぎていない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの理髪店を希望されている方は施設に訪問されそのひと時を楽しまれている。また、出張理容・理容サービスが出来るよう支援している。外出時には、服装を本人に選んでもらい職員と一緒におしゃれが出来るように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一部の入居者がもやしの根っことり等を手伝っているがほとんど職員が食事を作っている。下膳が出来る方には自分で行っていただいている。職員は入居者の食事が終わってから別で食事とっている。今後は、最低一人は状態を見ながら入居者と一緒に食事をするよう取り組んでいきたい。 (外部評価) 献立は、法人内の9つのホームが持ち回りで、栄養面を考え献立を立てている。その献立を基本に、近隣の農業体験施設からもらった新鮮野菜を調理しメニューに加えている。健康面に配慮しながら、無理のない食事量等にするよう留意されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量は全員毎日チェックし記録に残している。一時、食事面で食事量が少なくなった入居者がおられたが、その際には栄養補助食品を摂取された時があった。水分は1日1000cc程度を目標にし、呼びかけて摂取して頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアのチェック実施。1人で出来る方は自分で行ってもらい、困難な方は職員が介助し清潔保持に努めている。義歯のある方は毎週火曜日にポリデントを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを把握する為に必ず記録に残している。トイレ誘導が必要な入居者には定期的に声掛けを行っている。尿意・便意がなく自力でのトイレが困難な入居者にもトイレでの排泄を検討しオムツ使用に拘らないよう努力している。	
			(外部評価) 自尊心を損ねない一人ひとりに合った声かけや対応ができるよう、ケアカンファレンスで共有しながら排泄介助に取り組んでいる。また、排泄の失敗やオムツの使用を減らすために、差込便座やポータブルトイレ等の介護用品も利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘のある入居者には水分を多く摂取していただいたり運動チェック表を作り目標を設定し積極的に取り組んでいる。また、主治医に相談し服薬にて対応することもある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴日としているが業務の都合で本人が望まれる時間・日に入浴出来ない時がある。入浴チェック表で確認し、最低週2回入浴出来るよう支援している。	
			(外部評価) 希望があれば毎日の入浴は可能である。基本的には最低週2回は入浴できるよう支援されている。入浴を拒否する利用者については、家族の協力を得たり、声かけを工夫する等、入浴したい気持ちになるよう対応している。また、同性介護にも配慮しながら、気持ちよく気兼ねなく入浴ができるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時間は21時を目安にしているが、1人1人の生活習慣に合わせて早く就寝される方は入眠される。不眠時は話相手になったりするなど安心して就寝出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の表を作成し、全職員が見てもすぐに分かるよう作用・副作用・用量を書き以前の物に比べさらに分かりやすいように工夫している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一部の入居者の方しか役割はないが、一人一人がその日をゆっくり過ごして頂くように取り組んでいる。楽しみの一つで夜、寝る前にお酒を飲まれる方もおられる。レクリエーション不参加などで1日ソファーに座っている方もいるが、自分のペースで日々を過ごされている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩、ホームでの外出行事(買い物等)には一人一人参加の呼びかけを行い実施している。個別での外出支援は難しく、近くに家族がおられる場合は声掛けし協力して頂いた時もあった。	
			(外部評価) 買い物等での外出は、隣接する同法人の事業所と一緒に出かけることが多い。外出は月2～3回程度あり楽しみにしている利用者も多い。団体で買い物を嫌がる利用者については、受診の際に買い物をして帰る等の個別配慮をしている。中学生による外出支援のボランティアも受け入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には施設にて保管している。本人希望で自分で管理したい方は家族の理解を得て小額を本人と職員とで管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を希望される方は、家族の理解を求めて支援を行っている。手紙を書かれ投函される入居者もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) フロアには季節を感じれる写真、季節に合った作品を掲示している。季節感を感じられる環境を作ることにより入居者に喜ばれている。室温、テレビの音量等に注意し、居心地良く過ごせるよう支援している。</p> <p>(外部評価) ホーム全体に木の温もりが感じられ、畳のスペースにコタツを設置したり、対面キッチンの前にはテーブルやソファが置かれたりしており、利用者は好きな場所で寛ぐことができる。また、利用者と一緒に作った飾りつけは、季節感とホーム全体の一体感があり、自分の家だという意識が高められるよう工夫されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロアにソファがあり、一部の入居者は特定の場所しか座らない方もいるがその時はとても落ち着かれ、他の入居者と会話をしたりテレビを見たりされている。自分の好きな時に居室で過ごされている時間もある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ラジオ・馴染みのある家具等を持って来て頂き入居者が安心出来るよう家族に呼びかけている。また、誕生日プレゼント等をタンスの上に置きそれを見て入居者が喜ばれる時もあった。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッド、タンス、カーテンが備え付けられているが、使い慣れた馴染みのものを持ち込んでもらい、その人らしい生活ができるよう工夫され自分の居場所としていつでも心地よく過ごせるような支援に努めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一つ一つの空間も広く廊下・トイレ・浴室等手摺りを設置するなど安全対策をしている。また、自分の居室がすぐに分かるよう扉に写真を貼るなど工夫をしている。</p>	